清政和村立

一ニ拾石

寛永二

乙丑十月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

御方遠近之輩元通前々
申出無之様被申渡候
陸奥元年弐月
仲夏日

隆元御判
神保弥三郎殿

神保弥三郎殿

御方遠近之輩元通前々
申出無之様被申渡候
陸奥元年弐月
仲夏日

隆元御判

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1
ガラス使用

一神護院領之旧小川城并屋敷
地之高帳深栗毛在諸永之
一多治比弐郎先方領二所之
城山指地并藩之年貢
納之事
一和深方領主所西谷山川之境
往古栗師無用意論之
仕置之事
一師栗田寺谷年勤之
一師栗田寺新発大山川之境
往古山改并栗毛馬之事

一修理田之事
一吐先ヶ出嗜阿(二カ)和泉村之田畑寺
伯州会見郡阿賀村之
領指越要地令守
元亀弐年
二月吉日

元長(花押)
判

龍伴(花押)
長俗坊(花押)

り流れ西天痛國と天王意悪大猿
玉ハ佛法歸依ニテ元檀右也大将来
玉ハ佛法棄潮妻地なる事を恐へ
有縁を求め給ふ宗祢天皇即
位元年秋八月ニ西天より五ツの劔を
東ニ投け有縁の現ずべしと見ス一
ツハ紀伊國牟婁郡ニ留ル古社
玉日光山ニ留ル一ツハ漢洛國瑞鷲羽峯
ニ留ル一ツハ出羽國石陳山ニ留ル一ツハ
妻ニ古記の如

一ニ云ク玉ハ玉ノ劔ニ留ル時ニ社傳ノ天佛ノ釋迦善哭文殊
り出ル時ニ社傳の天佛の釋迦小
獨ノ天ニ祖ル本像ニ珠玉四躰共ニ昇首
玉ノ彼ニ石陳山ニ行テ多ニ玉ニ去
著シヨリ日本ノ風俗を少モ乱ひけるゐ
佛法衆ノ衆潮なき也ニ依テ彼
佛菩薩ニ像ニ前海國の石陳山ニ至ル帝ニ
御使人ニ入給ニ前ニ先ニ玉ニ往居ニ玉ニ
事國法ニ背ニ依リ龍前ニ山ニ参ル

り孫を三方の海東洲より
註改出て走ル事あたわ
らんとて四穴を掩つゝ家を
建山の中幸あり老山と称
九穴日出ル山と七穴曙
羽石珠と四穴菊山と四穴
古記也
人王卅四代仲哀天皇西海國皇
吸王と御親拝皇太子をまつ事年
於七月薨也と孫一孫彦仁天

皇出生一孫忍坂に宮
移一孫稚野大子残招く
大路王御授の社四社
り一孫忍大仲の程迎
二高院と創建ありて立
子國内降幸北序高山
一て田の古國百済國の
ずとて神の程迎幸啓
南山と移一て三社大権現と
と顕と生老病死の苦悩を
皇出生一孫忍坂に宮
移一孫稚野大子残招く
大路王御授の社四社
り一孫忍大仲の程迎
二高院と創建ありて立
子國内降幸北序高山
一て田の古國百済國の
ずとて神の程迎幸啓
南山と移一て三社大権現と
と顕と生老病死の苦悩を

社此月の祭に有司万方の服色を液り
人王三拾三代敏達天皇歳閏あり
勅を以城山と勅額し給ふ岡山と傳ふ
霊亀の傍憲忌和尚人王四代桓
古天皇三年也社護元年也
三四十八代桓武天平神護元年也
勅を以幸し給ふ那院神護と
と附会也

傳曰国防玄北門十社一井石城
式内
社の澄鶴を尋るに澄時代

と社こゝに勅請給ふの社と知ぞ
和名人皇の始りより社おのゝ鎮
りまし〳〵社境五畳四窟の霊
山なりまた奇石多の中に利休
ちごとく常立ち石碑有る今
まで也石碑左に有る今
林藤十色を花き五村の名ふ橋
根し社既望より陽りてさゞら
号ぞ土鳥井より二拾万余丁
なり結句に結て西の富士と称す

[illegible]
[illegible]
[illegible]

又百年代の帝稱光天皇北帝宇
高永元年の九月廿二日神幸
ありて神輿を行宮の神殿に遷
しまゐて神光北帝先つ大行司
狩行司小行司とて従行する
別大行司とは猪田長大神氏
并きまり今隣村と輪住在川
西村のうち大行司北里勤
其地猪垣氏の家より
り施すも其由言伝えず又狩

行司とは猪垣氏の家より
宮地命ありて先陣村上と奥
宮判田村猪田の里と
隣里なり別当奉氏の
主勤むる神社梅宮宮也
奥隣村上の奥宮
之内小行司の里又
行司檀現と称
年と事古人主九十代

の建治年中の御ぞう始まると
なんいうそのしるき神事ありて実
に其起源の古きを知るべし又高の祥集祉
をのぶ初てうつ法ども起りて老を助け
幼を携る自然国民の社会れみ
深き美の発現ともいふべし其日
をもてるとうつ今も五村十
村九四方八千の信仰
なるべし

[illegible]倫る等家濁[illegible]渭
ふ例の如く三社の内大山祇命
神富豪の三神なり豪も異る
事[illegible]前山神の社ある
ど毎年九月[illegible]
現祇の社のみぞ[illegible]
きを人[illegible]
[illegible]
云祇神[illegible]
[illegible]

時は春の始でまことに古ぶるき
云又権現本社は還御と対照を
おぬかまつばいろんとも云伝て名勝の称おの
んとぞいつる実なる哉此神は菊山の宇治より北方に
くらぶ山を神籬と斗祭事を此神おを
祝神事共諸法会なといへ
とも当神の神殊に尊き御

功業を称る況や当社をおひて
ハ神異深祈功ありて他社にまれ
功すくなき世の俗一き業を忘事
離まて忽神慮に違ふ事あるべ
も猶某ものかく社頭に筆をそ
てものく記名詩歌なとをそ
り云ふ所謂四季展とそれひとしき
此社境に妙見の社あり樹
紅葉も殊に神さび静なる其

東にあたりて社あり
陽て窟ありその内外の左
右に丁ぐりありまた
あり二つともに乾の方にあたりて山
の麓なる田の四つみな窟あり四
方にひらきて築山のごとし常盤の
松の緑うさかくまふ其渡口社あり三
町ばかり陽にあたりて往古の窟あり四
窟ありて山続いますと
いう薩田山なり山姫とも呂山

嶺の神氣我ともあれ右の
谿乾の方田の四りなる窟ま井古
ますて山続いまして毎年の祭の
祭物をかり用ひたきりを窟
の口へ出ル重なる其米を用
ゐまるまでもありそれ古老の
口伝ふ渉ふかる事なおとそ
怪きせりあるいかる神霊のなす所
あるべ一説ニ曰山ま女神なると

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1　　ガラス使用

八上郡建より百官宰相國主郡
司下等民に至てや家を教作修し
もてる者往古より神往霊域なる
なりき世の移り変ずまるに順あらず神社も世とともに朽
さびさる霊地未だ大木繁りうなぎ
ねこれを学ぶ大木繁りうなぎ
やうに天下某寺の擁護きみ
ぶよの久しかる事を歎き悲しき哉
豈尊きならんや四方百里民家安

全社の神を敬ひ崇敬のひぐき
を修ふ事無のまゝ門のかこも朽
ち御き事有まゝ

一神祠
佐田
朝倉八幡宮
矢治立年勧請と云石碑
山伏祀と云事
祖神殿柳多百葉杉百

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1
ガラス使用

勅旨九人西方村雑米送ル事
殿物納ル事
米遣ル事
八月十四日
十四日
枕箒木竹ヲ伐ル事
井泉清利
村清弘伐ル
沸幸森ヲ
越ル事

荒神社
三七卯五月
石塚山伐ル
伐神殿ヲ
方村雑米
ル事

疫神社
高神健
大歳神
玉祝神
銀杏
お殿志ル号
お殿志ル号
お殿志ル号

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1

ガラス使用

祖形の四大沙寺梁行三人
奇数雑本返り建立年
号未詳事

入里

荒神社

社殿弐拾五坪

祖形の四大七寺梁行三人雑
本返り建立年号未詳
事

田所

稲荷社

祖形の壱人寺梁行壱人寺桁
本通り

庵の石

大歳大将神

祖形の壱尺壱寸梁行七寸桁
り建立年号未詳
事

田所

荒神社

祖形の壱人沙寺梁行壱人

同所
稲荷社
但板形四尺
造立之事

同所
疫神社
但板形壱尺弐寸
造立之事

同所
荒ノ社

福重
稲荷社
但板形弐尺弐寸
造立之事

掛
稲荷社
但板形弐尺弐寸

未遂ノ意ヲ
云社當
但新約ノ
文化九酉
年ヲ通
行者當
但新約ノ
過ル和八年
所ノ下
稲荷社

神田
稲荷社
但新約ノ
未遂ノ
三組治屋
敷神社
但新約ノ

但新約ノ
未遂ノ
事

但新約ノ
未遂ノ
事

但新約ノ
未遂ノ
事

化三宮年再建之事

十王

稲荷社

伝称行基菩薩
本造之宮殿十年
未造之事

小倉

稲荷社

伝称行基菩薩
宮殿未造之事

安寧

天王社

伝称行基菩薩
杉木造之宮殿
人王三代安寧
天皇之御宇

横田

天満宮

伝称行基菩薩
建立年号未詳
仲哀

金毘羅社

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』　請求記号 829-1

ガラス使用

（別当僧坊）
芝師堂

仏殿梁行三間桁行四間杉葺
本尊ハ長六尺餘ノ木造ノ薬師
如来ニシテ中尊ハ蓮ニ中指
開ケ各柱ニ各種ノ宝壺
持ヘ中ニ右ノ掌ヲ左ノ掌ニ安座
シ玉フ薬師如来ニシテ人王五十
二代平城天皇北御宇大同二年弘
法大師御開基ニシテ疫病除災ノ
霊仏ト称ス

一ノ北院ノ

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1　　ガラス使用

山寺寺本佛免許表
諱七世本續住事
基家光吟吉
帝除當寺石門七佛立合
仙甲掌掛形吉梁行吉
葉盖
庫裏掛形吉梁行吉
門形
納屋吉石ニ動方同形動吉ニ九尺
吉祖吉方龍形等

鐘撞九尺四方同形龍形敷
木取文造ニ事
開基松浦龍安守源等改勇郷ニ
仁冢七寸井前村ニ第住居仕其
後藝州廣島開發ニ付テ寺領ニ
除永住為吉ト改メ寺ニ
移ス仁寺建立寛永六巳九月寺
号御免ニ付テ前現住第三十二
世末孫住事
基家淨泉寺

仕掛ケ候ニ付七右衛門
彦兵衛掛ケ合ニ而梁ヲ
両掛ケ沙右衛門
掛ケ合ニ而梁ヲ
彦兵衛掛ケ合ニ而梁ヲ
梁ヲ九尺ニ
包松雑木取
光右衛門
彦兵衛掛ケ合ニ而
右諸
光右衛門
彦兵衛掛ケ合ニ而
梁ヲ
梁ヲ
梁ヲ

阿陽堂　老字
但掛物ニ有梁行或有梁等
松雑木造ニ建立年号ある
り　事
地花堂一字
但掛物ニ有梁行ニ建立年号ある
松雑木造ニ而ハ梁行ニ有
事
記言堂一字

但掛物ニ有梁行ニ有梁等
木立ニ而ハ梁行ニ有
事
阿陽堂　老字
但掛物ニ有梁行ニ有梁等
木造ニ而ハ梁行ニ有梁等
花ニ子年毎ニ
生言家ニ
而ハ庭ニ
通ニて

北名称ノ事
観音堂一宇
但梁行三方松雑木
芝師堂 三字
但梁九尺 四方松雑木ニ而
造葺屋根板ノ事
右堂社共ニ
本寺ニ而修理出来ニ付
師ノ来ル二月十日ニ
開帳ノ事

慶応文化年中再建ノ事
阿弥陀堂一宇
但梁行三方松雑
木造葺屋根板ノ事
ノ三ヶ所ノ事

一南高札場
一御代官所
一御蔵所

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1
ガラス使用

一沸泉名
一沸井陳氏家屋
一猴猴橋
一島湊岬瀬主ヘ
一度隙玉津手形
一宰屋
一本往還
一驛
一陳古墓
一温泉

一牧
一大河
一沼

右前村ニ於テ之ヲ記事

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1　ガラス使用

熊毛
宰判 周防國熊毛郡風土記　拾六

熊毛郡無毛脚宰判之内

宿井吉井両村

当村宿井吉井と貳ケ村ニ而郡名ハ不
永之比宿井村ニ祭セ村ニ於成ル宿井
村と中ノ条古来之村名ニハ有ら
所の小名ニ而ハ後に村之惣名とふりル
由当時市と中所ハ湊幅弐尺余ニ今
流ル所凡百四拾四間ニ而此流ヲ宿井

と唱へ有いやどる井ハ水の居り所之謂
ふらん
又北市の後寺町条東上ノ関御牢判波北
村之内ふるう笠よ泉光川とて古き名
水有り近き所ふれた此井を名附て宿井
といへるとも
又曰石塚の神社之行幸此地ニ有り借
殿を建営ーて宝殿又ハ宿院杯といへ
り院の字略ーてミやユノイともいへる
いつをも詳よお勿不申ル変

吉井村ハ元三輪庄之内ニ而吉井村と唱
へハ訳詳なる事不相知ル此村の行詰ル
吉水といへり此所よ二つ井有て昔ハ名
水と謂傳へよつて吉井村といへるよー
又往古吉井氏とて名士有り此家名ハも
断し唱へとも中変ニ而亡ル

一竪横里数

東上ノ関御牢判波堅村境馬場ハ西三町
村境須川近九条里拾五丁位南上ノ牢所

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1
ガラス使用

戈判境衣通しえ垠なわ吉井村瀬ゝ呉垠
塩田村境迄九三拾壱丁位

一村内小名
宿井村
市
宮内
森園
田祭
仇迫
別所
延年
西目
原
廣井

時貞
吉井村
吉水
原
家ノ内
衛門
以上
石ノ口
夏田
三夕
宇田

一山川之形勢
但村内高山大河無所有東ハ高ク西

南北ノ方村境ヘ中流ニ在リ

一西三輪市境ニ発シ岩井左田川堺ヲ山傍ヲ
鷺屋川西村境川土ヲ大島郡上ノ関往来
ニ於テ

一東宿井市上ノ関ニ於テ判境又石塚山之
麓田畠或ハ小高キ合壁山等ヲ経テ中
南上ノ関ニ於テ判境漸戸竹部同所

一小塩田村境石ノ口即立山ヲ切ヶ迫峠迄
峯尾續ニ於テ尽ル

一中央ハ高低之地ニシテ平地少ク低キ山脇
又ハ谷ニ有之田畠ニ壁芝等家居ヲ
交リ居リ候

一村内日交土地ヲ之
但岩井村分南交ニ石陽地ニ於テ土
地ヲ赤土黒土等砂土ヲ交リ有之中ニ吉
井村分西南交中陽之方ニ白土或ハ砂
交リ灰土等ニ於テ尽ル

一水掛リ水損旱損等之

但村内大河無時庵堀池ニ而雨水村ふく
出水ニ而ふく旱損之不ニ時庵ニ而ふく

一肥下等之事

但村内聖山ニ而ふく時庵ニ而ふく
等之不宜不如意之方ニて時庵ニて了

一氣候植付時節等之変

但村内中陽之不成故ニ暖氣ニ
而白雨等ニ而ふく冬分雪ニ而ふく
等ハ冬分降り不申ふく

変植物種蒔之時節ハ靭種三月節入ニ而ふく
四月節ニ入前迄ニ苗代ニ苗入ル四五指
日過ニ而出月節中を限り入梅ニ而最中
ニ四植付申ふく大豆大角豆ハ八十八
夜ニ而綿ハ三月上用之ニ而ふく粟黍稗胡麻ハ
四月中ニ而ふく蕎麦ハ二百十日ニ而大根菁菜
之類ハ二百廿日ニ而ふく菜種九月上用より
冬ニ而ふく近ニ而植候琉球芋茄子煙草胡瓜南
瓜東瓜等ハ二月彼岸後種苗入梅中ニ
植付ふく

一田壱町弐反九畝廿七歩
惣高弐千四百弐拾七石弐斗七升四合

内

田数百八町五反五畝拾九歩
高千九百四拾五石七斗三升九合
畠数七拾町七反四畝五歩
高四百八拾壱石五斗弐升五合

以上

内

田数弐町壱反四畝壱歩
高七拾弐石四斗弐升七合
畠数弐反三畝弐拾壱歩
高弐石八斗九升弐合

以上

田数百六町四反壱畝拾七歩
高千八百九拾三石三斗壱升弐合
畠数七拾町五反拾四歩
高四百七拾八石六斗三升三合

以上

残 四ツ成 石貫

諸引方

一諸上納物之事

米八百拾弐石四斗七升五合九勺四才

畠銀四貫七百八拾六匁三分三厘

浮役銀五百弐拾壱匁八分弐厘八毛

門役銀弐百四拾八匁八分五厘

酒場銀七百三拾四匁四分弐厘

山立銀四百八拾八匁四分弐厘

大豆十貫九石五斗七升弐合六勺六才

巌縄拾壱束八房半

渋紙壱枚壱束壱束弐味

細引壱本壱束壱束弐味

以上

一小貫之事

米弐拾八石六斗七升七合四勺八才

但天明七未年御改勘定法

八六石七斗三升七合壱才

但酷時定法之通

八五石三斗弐升三合四勺三才

但天保三辰年御改増小貫定法通

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1　ガラス使用

一御藏貳ヶ所

内

菅井御蔵

但梁行三間桁行五間小麦藁葺

吉井御蔵

但梁行三間桁行六間小麦藁葺

以上

一諸御国穀　天保十三丑ノ秋御蔵造通寛政御国来五拾五俵

御撫育方名目御国米百四拾俵

同防救拾九俵

去午御多当救六拾弐俵

御用心救貳千五百三ヶ年分八俵

新入替張縄米六拾七俵

同防救九拾三俵

文化三地下置米弐拾八俵

社倉御国救七拾弐俵

但社倉之儀者塩内菅井川西三ヶ村

僅永ニ付塩内村ヲ建調国方救成ル

以上

一萩并海辺里数之亥
但当村東南之辺鄙ニ而本往還并之元
大島郡上ノ関ゟ之往来即座ニ亥
萩ゟ武拾五里小周防勘場ゟ弐里半来
津出場上ノ関ゟ判廉々村ゟ海ニ而
里半

一箱井市家数三拾弐軒
但家並宜ならニ而困窮和ゟ付居難い
つゐも不宜ゟ事

一市町ニ石塔柱現石華表有之高サ弐
尺弐寸五歩算ニ而石ゟサ分ゟ有ゟ此柱
廻り五尺六寸五歩銘文防州熊毛郡美
和庄塩田村石塚山十神之内三社柱現
社と有之建立年等元禄十四辛巳年
九月吉日と明存ゟ

一市中ニ柱現社明旅所石壇明有ゟ事

一御立山拔四ヶ所

内

御当職様御名札○印

御代官様御名札●印

大澤山弐町　但松立之分

徒行山三畝　但同断

宮田山五畝　但同断

経塚山八反　但切跡之分

袁國山壱反三畝　但松立之分

石ノ口山六町五反　但同断

内

四町御囲山

三本松山壱反五畝　但同断

藤ヶ沼山壱反　但松立三分

宝ノ内山貳反　但同断

姫子ヶ迫山壱反五畝　但小松立之分

地山壱反　但同断

吉行山壱町　但同断

南山四反　但同断

別宮竹藪壱反弐畝　但外雑木立之分

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1

ガラス使用

以上

一合壁山百拾弐町八反五畝
　立銀四百八拾八匁四分弐厘

一山野九ヶ所
　内
別所　水上
弥ヶ迫　行力
幸ヶ原　戈役
道免　塚ヶ迫
了法
右熟し薄地小石山等ニ而茅立不宜ニ
事

一寺社境内山三ヶ所　町歩弐反九畝拾九歩
　内
壱町三畝拾六歩　周吾庵
弐反三畝弐拾六歩　了法寺
弐畝　浄林寺

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1
ガラス使用

以上

一川数四ヶ所

内

中島川

但上ハ三隅村ヶ流村内掛九町余下
ハ上ノ関ヨリ戸刈田布施村ヲ出川幅拾

同村川
小中川

但上ヲ徳行堤下ヶ流出長拾丁未ニ而

中島本川ヲ落合川中拾壱間程有之ハ
事

同村川
桜川

但上ヲ定村ヶ流出六町程未ニ而中島本
川ヲ落合川中拾五尺程有之ハ事

同村川
吉井川

但上ヲ吉水ヶ流出拾五丁未ニ而中島本
川ヲ落合川幅壱百間程有之ハ事

以上

一橋拾壱ヶ所　内九ヶ所石橋　内弐ヶ所土橋

内

九山石橋　長壱間横五尺
瓜迫石橋　〃五尺横三尺五寸
下橋石橋　〃五尺横三尺五寸
宮村石橋　〃壱間横三尺
庄田石橋　〃壱間横四尺
廣井石橋　〃壱間三尺横六尺
西月石橋　〃五尺横三尺
五反田石橋　〃四尺五寸横三尺弐寸

橋本石橋　〃壱間横三尺弐寸
小中土橋　〃弐間横三尺五寸
三反田土橋　〃弐間横壱間

以上

一井手七ヶ所

内

東井手　高三尺五寸長拾壱間
森井手　〃七尺五寸長拾四間
小浦井手　〃三尺長三間

寺、下井ま　一ヶ所ニ而長弐百
橋ヶ本井ま　一ヶ所ニ而長弐百
井井ま　一ヶ所ニ而長三百
役神井ま　一ヶ所ニ而長弐百
以上

一堤拾三ヶ所

内
池ノ内堤　水溜壱反五畝
吉光堤　五畝

別所堤　一ヶ所ニ而八畝
京上堤　一ヶ所ニ而五畝
光源寺堤　一ヶ所ニ而三畝弐拾歩
蘭蒙田堤　一ヶ所ニ而壱反
焼ノ田堤　一ヶ所ニ而壱反五畝
合ヶ迫堤　一ヶ所ニ而壱反五畝
原堤　一ヶ所ニ而壱反弐畝
宮田堤　一ヶ所ニ而九畝
以上

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1
ガラス使用

一桶弐拾七ヶ所

内

庄田流差桶
廣井流差桶
真居差桶
徳利流桶
下徳利流桶
五重流桶
下五反田流桶
五反田居桶

長弐尺壱寸
〃弐尺六寸
〃壱尺壱寸
〃弐尺
〃弐尺
〃弐尺
〃弐尺
〃弐尺

廣井居桶
庄田居桶
弁天井居桶
曲り田居桶
外村居桶
実清居桶
松石居桶
上五反田居桶
小浦居桶
横田居桶

〃壱尺
〃壱尺
〃弐尺
〃弐尺
〃弐尺
〃弐尺
〃弐尺
〃壱尺
〃壱尺
〃壱尺

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1
ガラス使用

下及田渡桶
宗室渡桶
小作田渡桶
橋ヶ本渡桶
米次渡桶
中井手渡桶
及田居桶
役神居桶
東井手居桶
以上

一弐百
一弐百
一四百
一弐百
一弐百
一四百
一四百
一四百
一四百

一家数貳百六拾弐軒
内
本百姓百九拾軒
内
六拾弐軒
弐拾五軒
五拾弐軒
五拾三軒
以上

本軒
七歩五朱軒
壱軒
四壱軒

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1
ガラス使用

内
百八拾弐軒
三軒
三軒
弐軒
以上
七百廿七拾壱軒
内
六拾九軒
壱軒

農人
大工
木挽
高人

以上
一口数弐千三拾弐人
内
男五百拾六人
内
僧侶壱人
社家 四人
女五百三人
僧拾壱人

玖珂郡

玉江

一職人 弐拾人

大工 木挽 六人

但職人ハ下役不取仕付水役永勤

物成根帳付ニ附記ス事

一馬飼 弐拾人

指仕ハ衣無地ニ袖ニ馬ノ字ヲ付ル事

一在宅之町諸士等

一雑戸 筵五軒

人数 男五人

女七人

一牛馬数 八十五疋

内

牛数七拾四疋

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1　ガラス使用

馬数指令之事

以上

一風俗之事

但当村之内小村ニ而ハ
都而同様之処ニ而農業一途之村方ニ
而ハ貧窮之窮民之部ハ
小作ニ而ハ戸数之割合ニ田畠多分ニ
当りハ故仕方多而不申自給ニ困窮ニ
多而ハ貧風俗之
ハ都而正月元日
ハ七座社江那当并地下役中を始親類ニ
ハ年始之礼辞ニ被相済ニ鋤初鍬初農具縄綯
初当いたし三日之
雑煮祝ひ当之
係ニ懇意中ハ
一正月十五日二月朔日三月三日七月七日
八月朔日当ニハ
仕ル已ハ
一四種ニハ
一祝ニ種仕舞或ハ
ハ休足仕ハ尚又年祭
之家例ニ有之分
ニ而ハ
ハ近辺之
ハ女を傭
ニ而ハ
ハ又ハ

三軒僧私ニ〆植付仕ル部落ハ此ノ村
ト申植端仕ル故ニ此ノ役ヲ日限ヲ定テ祭
ト号シ書田虫除五穀豊饒之ため
氏神田ニ而幸輿行仕於小村ニ神
輿ヲ墓ニ書テ日ハ酒ヲ汲ミ酒ヲ又ハ代満テ
拵ト唱ヘ休足仕ル者モ有ル
一六月晦日ニハ賽銭牧牛馬請免等モ仕
ル村ニ而ハ休足ハ不仕ル
一七月十四日ヨリ十五日ハ盆祭佛事等仕
十五日計休足尚又若キ男女盆踊ト号

一二百余踊来ル
一八月十八日産社ハ幡宮ニ秋祭神輿
執行事仕ル
一九月ニハ小村ニテ神祠ニ而一歌宛之祝
詞有之九月九日ハ大鏡寺石峰権現社之
祭日ニ付相応当仕心後ニ訪業仕ル
一春分ニ秋分ニ当ニハ定ㇾ会ト唱ヘ六七日説
法十一月ニハ報恩講ト号シ其ㇾ寺
院ニ而忌当有之佛事仕ル
一婚礼之儀ハ近親之者ニ而集リ和合

之奠供菜、石盃等致一分礼意之
ヲ整ヘ近隣朋友よりし祝辞之験を
指糸仕盃扠等致ル事
一家建之節ハ親類組合れ祭り集りを催仕
尚又ヶ宛之祝儀指遣れもの等吸物
ハ小鉢之者ニハ縄本竹等之助力等仕
ル事
一葬式之後ハ親類組合れ集営要等調へ
香奠諸末指掌ニ那当れ招待迎送りれ
調斎菜之振廻寺参れ糸等当れ憚退散仕ル
火葬土葬共有之ル事
一十二月十二日一ヶ年宛座立之男女出
代り之定日ニ御仲間不ル女計り八七日十
三日ニ男出代り仕ル定
一歳暮ニハ野菜其外鰤不順家又ハ親
類知音之内ヨリ贈もの者等有之ハ大晦日
ニハ年仕舞れ整祖れ内祭庵の礼ヲ
述ヘ近所之神祝ヒれ糸当仕ル事

農家七右衛門知行之御判物写
任願、熊毛郡宿井村之内小中郷為知行
任居并令院地者也依而如件
慶長六年八月三日　　毛利輝元御判
田熊杢助殿
任
慶長十三年七月朔日　　毛利輝元御判
田熊七郎左衛門とのへ

地下警固屋慶和持之御判物
写
外古文書写
紀
永禄十二年正月六日　　毛利輝元御判
加冠
天正六年正月廿二日　　毛利輝元御判
毛利又三郎殿

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1
ガラス使用

加冠

之禄四九月十六日　　御判

未開白袴之義とのへ

然毛那員和広之内石峰寺事未開
冊後入道、為院地新宛事不習勤支之
依所求陳所中付習安小共由可申旨
不怠之懃言

栗屋内蔵丞

五月十三日　　元粧御判

長井右馬丞右条々支

山筋年右条々及

立野九郎右条々及

北条破れ之付略之

以上

田数弐町三反三畝拾歩

米弐拾七石八斗七升

五反四畝拾歩

代六百六拾五文

畠

代七百廿一文　　め〻〻

并武拾九石武斗五升六合代弐〻

慶安　　佐武　　三郎右衛門御判

三嶋　　加賀守御判

苅田

東市之允御判

蕭主

未図六号無場

和泉守御判

寛永十四年酉ノ冬　　元宵法寺

肴二台

寛文弐年酉ノ冬仁左衛門

能辰御判

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1　　ガラス使用

未岡又右衛門
寛文十戌年乃貢三郎左衛門
四月十一日
任
未岡平兵衛
延宝九年
四月十一日
任
未岡平兵衛
就展御判

右未岡玄慶方居屋敷之儀本吉井村
之内石塚与申和ゟ而先祖毋治入道
ゟ引續以今無怠慢住居仕ル由ニ而
庄ル事

農家第次郎和扨之古文書字
無乍那貢和左之内未岡孫右衛門
地系作職之事親孫右衛門ゟ
永代付ル由云天文廿四
扨拘ル由付狩以全巻止畢
要之由ル彼仁事

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1
ガラス使用

従前之例而他意之俊尓殊更去年輝弘退散
之刻歎百余切腹之述旅宿海塩令諸方倘
後当村捕尓趣遂捉露心軒眉之腔(毀)新比
較尓候(候)処肥後守九弥向後之俊忠俊肝要之
由尓付拠尓自然被免地仰(候)未遣就妨之仁(候)
以代官処方気未遣(候)条言語
之旨尓恐々謹言

永禄十三
十一月二日　　元良判

児玉三郎右衛門尉
殿

栗屋内蔵出
元経
栗屋宗兵衛尉
就秀
国月飛弾守
元礼
桂
上総介
元忠

東漸寺
潤庵
雲寺殿

一産業之事

綿木綿織出し千弐百五拾反位代銀拾八匁
　　目位
菰筵弐千五百枚位　代銀四百目位
灯心六貫目位　代銀百五拾目位
塩蒿六千枚位　代銀三百目位
　但いつれ茂子丑三ヶ年見拝一ヶ
　年分代右之通

一物産之変

米代千五百石位
麦代百弐拾石位
大豆代百弐拾石位
小豆代三拾石位
大角豆代弐拾石位
粟代五石位
黍代七石位
稗代拾石位
蕎麦代七拾石位
蚕豆豌豆代弐拾石位

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1
ガラス使用

菜種九弐石位
琉球芋九五千五百苅位
大根九弐千五百苅位
茄子九三百五拾苅位
橘実九八百斗入弐俵位
柿九五千斗入弐俵位
菓九千弐百个位
以上

但熟ル実子丑三ヶ年ヲ出来立見拵
ニ一て壱ヶ年ヲ出来ル之員数右之通

竹木之部
松杉程椿柏栗柳厄木櫟木此外雑
木松木立多雑木之外入用之ヲ
ハ村中之薪ヲ外入用之ヲ
梅栗梨柑橘ヶ合壁ニ植居ル者此度
ハ検分ニ不加故賣拂ひて渡世
ニ相成ル程之儀ハ無之候哉ニ受

菜草之部
葱芝 茗荷 香附子 山梔子

伏莠　艾葉　麥門冬　木賊　家ハ有
之和名ハ所々ニ於テ採ル出ル仕ノ者ハ年
ハ米ヲ以故ニ外稼ニ拘リ不申ト云
鳥獣之部
猪　雉子　鴨之類ハ家ニ居ル故ニ一切
獵人無所々ニ云
以上

一神祠

石ノ口八幡宮
神舎桁行弐百尺梁行弐百尺萱葺
舞殿桁行三百尺梁行弐百尺萱葺
入弐百尺横壱百尺庇葺廊下
四方庇葺　鐘楼七尺五寸

吉井村石ノ口ニ有

社領
陸田高六斗
氏神三所
定中座東

蓑田等
氣長足媛等
祭日八月十七日八日
但宿井吉井塩田川西三條五ヶ村之
生社神ヨリ一ノ十七日夜八番祭ト号
一社傍神護吉神主石黒駿河其外服
社家下社家數軒宮子ホヒ名出社十
八日八ツ時三本松ト云ふ所へ行幸ノ
て祝祠有諸役人供奉七ツ時還幸ス
日氏子相集仕ル

若宮社　三尺四方
第神大鷦鷯天皇　仁徳天皇
高四維社　貳尺四方
第神武内宿禰神壷

以上

社傳曰人王四拾四代元正天皇
神秋大内十世盛高公依命令治和多守を
て豊前國宇佐郡宇和八幡を勧請ヨリ
と云ヒ社司石川庵神主佐波大藏大夫政春
始る今ノ社地ヶ指弐丁東西当ヶ迫と云所

二鉄表あり今当ヶ迫の観音其跡といへ
り又俚諺に日宇和より飢渇にて帰るの時
岩井村小中岩仏と云所の僧に神霊ある
休免を里此所を八幡免と唱へ又烏帽子
磐とて烏帽子よ似たる大石有湯立供
たる所とて湯免と云此皆八幡宮之遺跡あ
りと故に承武癸酉ノ秋今の地に移すと云
て寛延之比大風にて社殿を破損し新よ造
営栴梁三尾住藤井九郎大夫神主橋迫民
部大主社司石門庵ハ社地なき丁集賀方に
有しかいつの比よりか破却となりと云
当宮の古鏡弘治元年陶尾張守御退治之
時巌島よ持行をさまひて今ヶ大正院(廃寺)と何
り其銘文之内に周防国熊毛郡安和庄石口八
幡宮天文十一壬寅大檀那仁安清当添朝
臣親宣迄形志同宮治と有之由此度ハ
当社奉納之大般若経大箱之上書
寄進井奉鴈子代
寛文六年丙午八月十七日
延文書写ハ寛永十二年安和庄石ノ口

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1
ガラス使用

於石門庵字之と有之意
以上

天満宮　宿井村山崎にあり
祭神一座菅公神霊
元文三戊午年鋳造其外傳記未詳
蛭子祠　宿井村市に有
稲荷祠　宿井村狐辺に有

荒神
疫神　右祠
荒神祠　宿井村別所に有
但石塚山傳記曰四面荒神之一ニして
南都片岡之荒神を勧請と云
稲荷祠　宿井村条正
稲荷祠　宿井村別所に有
八王子祠　宿井村条に有
山王祠　宿井村中七井に有
稲荷祠　宿井村曲り田に有

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1
ガラス使用

稲荷祠　吉井村五四ニ有
疫神祠　吉井村神邊ニ有
荒神祠　吉井村石塚ニ有
貴布禰明神祠　吉井村南山ニ有
大嵩明神祠　吉井村ニ四ニ有
荒神祠　同所ニ有
荒神祠　吉井村向山ニ有
稲荷祠　同所ニ有
荒神祠　吉井村傍ニ有
稲荷祠　吉井村丈四ニ有

稲荷祠　吉井村杉ノ有ル
荒神祠　吉井村吉水ニ有
祇園祠　吉井村片山ニ有
春日祠　吉井村後山ニ有
人丸祠　同所ニ有
以上

一寺院

内

等言宗慈恩山浄林寺

本堂南向桁行五間梁行四間本葺
本尊十一面観音　行基菩薩作
　但長七寸五分
本寺塩田村神護寺
古家高九斗六升四合　脇陳
寺僧二小中南ノ々神花之里ニ有道林房と
云ヘ称今の地ニ移をを云ヘ神花の里ニ有
の土地より五丁西ニ有
書洞宗天寧山福善庵
本堂序裏造辺桁行四間梁行三間本葺
本尊十一面観音　春日作
　但長三尺七寸八分座像船後光付
昔四布施毛木村子坊退滅之後当
寺ニ移して安立すと云ヘ
本寺上田布施村詫泉寺
寺僧二当寺底基開善居士俗姓ハ小厩大夫
寛永五年辰ノ春利髪して居宅を精舎
改ヘてより後退て僧侶を招請して安永
七年恒川和尚法地之完山と云ヘ

曹洞宗正福寺

本堂五間四面茅葺

本尊十一面観音

但長三尺三寸彩像

本寺末陽源寺

右享保弐拾年萩川上ヶ古海寺等を以

て建立ホ中ニ時衰ひ

当寺佛照山了法寺

本堂桁行五間梁間五間茅葺

庫裏桁行五間梁行三間茅葺

本尊阿弥陀

本寺都野郡留田村善宗寺

当僧ニ冤基佐姓子当所之住寺坂孫三郎

と云ふ剃髪落衣一向宗門となりより

追ヽ荒蕪ニて元禄十ヶ年大島郡ヶ古海

之寺号を以再建ニと云ヽ

一堂庵三部

内

菜師堂

宿井村別所ニ有

但塩田村笠云宗神護寺抱石塔山四
面薬師之一ツニシテ往昔利生山薬
王寺と唱へし事
阿弥陀堂　宮井村東ニ有
但三鴾村浄土宗浄国寺抱
大日堂　宮井村仮道ニ有
但同所
阿弥陀堂　宮井村多喰ニ有
但同所　時負
地蔵堂　宮井村多喰ニ有
但宮井村吉井村境ニ有
大師堂　吉井村吉水ニ有
但三鴾村浄土宗浄国寺抱
観音堂　吉井村士田ニ有
但同所
観音堂　吉井村神道ニ有
但同所
阿弥陀堂　吉井村後谷ニ有
但同所
大師堂　吉井村戸出ニ有

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1
ガラス使用

但有井村禅宗園菴抱
阿弥陀堂　吉井村法楽寺ニ有
但大波地村禅宗檀家立寺抱
般若堂　吉井村水上ニ有
但大地村禅宗檀家前寺抱

以上

过佛之部

内

地蔵尊躰　有井村上市ニ有
地蔵尊躰　有井村宮田ニ有
地蔵尊躰　有井村小田ニ有
地蔵尊躰　有井村糸上ニ有
地蔵尊躰　有井村妻恋ニ有
地蔵尊躰　有井村法光坊ニ有
地蔵尊躰　有井村仲宮ニ有
地蔵尊躰　有井村廣井ニ有
地蔵尊躰　有井村尾及ニ有
地蔵尊躰　吉井村石口ニ有
地蔵尊躰　吉井村戸出ニ有

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1
ガラス使用

地藏菩薩　　吉井村有近ニ有
地蔵菩薩　　吉井村吉水ニ有
以上

一古墳跡之事
石ノ口山
当時ハ立山ニ於テ誰人ノ居城ト云
事未詳ニハ候ヘ共当時ハ古鏡巌
篤ニ有之其銘壮偖之不ニ拓見ル通
大檀那願仁冥満寺ト有之ル処ヲ
比之城主ニ石ノ口ト称シ候ヨリ
更ニ塚ヶ迫城腰林ト称シ候ヘ共
分不分明ニ御座候事

一塩濱
一御本陣御茶屋
一御代官所
一御書所遠見書所
一御高札場

一若里塚
一本往還道
一驛
一温泉
一大山
一狼烟場山
一牧
一大河
一沼
一海

一島
一澤
一岬迫門瀬をへ
一座陸公洲を形
一船数
一古戦場
一名所旧跡
一陵古墓
以上

古当村之条中事

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』　請求記号 829-1
ガラス使用

周防國熊毛郡風土記　拾七

熊毛郡

美和庄川西村

當村美和川を隔東ハ宿井にて西ハ當村に當りて往古ハ三輪庄と唱へ延宝ニ比井東小四郎様御領分ニ御座候當村ニ而大田と申処ハ前方大田前司長光住居ニ地と申伝候座候

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』　請求記号 829-1
ガラス使用

一村内竪横里数

竪東上関御戈判下田布施村境石走りより西三輪村境暮六ツ半まで凡壱里位

横南日御戈判上田布施村境大鶴河内峠より吉井村境本安と中ほどまで凡三粁町

一村内小名

西山　本安
葛岡　木船
同明寺　安平

石走り　大力
大田　畑田

七上

一山川之形勢

村内大川并山野合壁山木多く平地并
牧棚田沿田と変多く人家まちに有之
市中と中程と変之三方境山野木峯尾
限りに御座候

一村内日請土地おゝ変
當村ゝ儀西高く東低ㇾ村内半陰半陽に
ゐ小至変限り日受一統に云ゝた土地ゝ
儀都ゐ小石交り白砂荒砂ホ多く田地ゝ
儀ハ凡六等方水田四等方麦畤石ゝ儀ハ
麦茎ゝ石多く所庭ゐ
一水掛り善悪ゝ変
當村大川ホゝゝ枝川ホも云救ゝ外堤清ホ
も有之ゐ若日照年ゝ儀ハ作水切ゝ
卜旱損勝ゝ所庭ゐ

一肥下草ゝ事
但村内山野入おホ有之ゐ若大概遠山
其上白砂元山ホこて下草生立ふ宜村内
ゝ肥ゝて行足兼手薄ゐゝ肥買入に
て他方仕ゐ

一気候寒暖植物時節ホゝゝ
但當村海辺近く故欤雪少く霜ゝ深く降

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1
ガラス使用

中ハ寒氣手強き方にて暖氣催し候
三作座ハ植物と義ハ三月中ハ比苗代踏初
籾蒔付より水田と分日数凡五拾日位堅
田と分日数ハ四拾日位を見
詰にて五月節入ハ植初節内にハ大概
植仕廻ハ麦蒔付ハ十月中ハ比より植
初畠作夏物と候ハ八十八夜前後より植
付蕎麦二百十日前後迄植付粟黍稗四月
中ノ比前後植付大根冬至を見詰百日前
ニ蒔付芋類と義ハ五月節中ニ植付其外

と植物と義ハ右ニ準し其時ニ応じ
作方仕候事

一田畠数百拾七町七反九畝九歩
高千五百九拾七石三斗三升九合

内

田畠壱町五反壱畝拾四歩
高三拾四石五斗六升五合

諸引方

畑畠百拾六町弐反七畝八歩
高千五百六拾弐石七斗七升四合

現高

田
田数八拾町九反五畝三歩
高千三百七拾三石八合
畠数三拾五町三反弐畝拾五歩
高百八拾九石七斗六升六合
已上

一諸上納物之事
并米五百九拾石三斗四升五合壱夕
畠銀壱貫八百九拾七匁六分六厘

浮役銀三百四拾三匁八分壱厘
門役銀百六拾壱匁七分
山立銀弐百七拾三匁五分弐厘
大豆七石七斗九升五合三夕弐才
蔴縄七束七房
浩紙弐枚三歩五味
細引弐本三歩五味
已上

一小貫之事

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1
ガラス使用

米弐拾弐石七斗八升四合九夕　地下定法
米六拾六石四斗弐升壱合七夕六才
米拾石四斗三升八合八夕　勘獲定法

一御米蔵壱ヶ所
　開明寺
　　但桁八百梁三百葺ミ

一諸御囲有米　天保十二丑年暮御蔵詰通
　寛政御囲穀三拾壱俵

文化三地下並米拾八俵壱斗八合四夕
御撫育名目御囲米五拾八俵
新入替張縄米四拾九俵
出羽御手當米弐拾七俵
御撫育名目御囲籾百拾九俵
新入変張縄籾六拾八俵
大公儀御囲ミ分弐拾七俵
寛政御囲ミ分弐拾四俵
御用心籾ミ分六俵
社倉籾五拾六俵

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1
ガラス使用

一萩ヨリ浦辺ヘ里数之事

但當村ヨリ往還之小周防官場ヨリ萩
ヘ弐拾四里浦辺室積ニ弐里
ヒ上

一大山

暮六山

但當村ヨリハ大山ニテ高サ九七八町周
廻り委細ハ知ラズ

一御立山ノ事

井上山　三町三反九畝
妙見山　四町弐畝
牧原山　壱町五反八畝

右御當職様御名札ノ外

日ノ平山　三町
暮六山　六反弐畝
飯ノ山　壱町
多賀山　弐町壱反
甘酒山　六反弐畝

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1
ガラス使用

天徒山　三反弐畝歩
石壱り山　三反弐畝歩
有ヶ益山　壱町弐畝歩
多賀新立山　弐反壱畝歩
暮立新立山　弐反弐畝歩
飯ノ後新立山　弐反弐畝歩
右御代官様御札山ニ而

一合壁山ニ而
七拾町四反壱畝

立根弐百七拾ニ双五分弐重
已上

一山野拾ヶ所
但山野ニ内境目ニ候ハ上関御支判又ハ
當御支判ニ有之場所ハ下草木ニ候ハ
村内入割ニ而苅取申候若元来落地ニ
而下草生立ハ宜ク候ハ牛馬飼
料ニもふり是位ニ候ハ田畠入草ニ引
當ニ御座候

一寺社境内山三ヶ所

妙見山　町数三反八畝

蓮生寺　町数六畝

蓮地寺　町数三反弐畝

一川三ヶ所

一山

卿川

但水源塩田村ヶ発水にて當村に流上

関下田布施村ニ流此変にて川幅五百

位にて壱里程流水左ゟ

大田川

但此水上上関御宰判真砂村ゟ発水に

て水末日御末判境當村ニ而卿川ニ流

水入此里数壱里此変にて川幅三百位

木安川

但水源當村流末卿川ニ落合此流九弐

杉五町川幅弐百位

一井手弐ヶ所

裏井手　七井手ゟ杉八百

中島井手　七杉百八十
田中井手　七五百
成光井手　七七百
吸関井手　七四百
一ノ井手　七五百
泉田井手　七討百
牛屋の下井手　七討百本
二俣井手　七三百
影ヶ平井手　七三百
林本井手　七四百

七上

一堤弐ヶ所
蒸堤
檜井堤
七上

一溝壱ヶ所
中嶋溝　七三杉百

水面六畝
三畝

一樋弐拾壱ヶ所

柳原流樋　長拾七丁壱尺

一荒子　〃　五丁

蓑積　〃　四丁

樋井　〃

中島　〃

古川　〃

末安　〃

清源　〃

柿ヶ本　〃

影平　〃

〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃

この越　〃

原田立樋

九田樋

殿井　〃

田中　〃

熊田　〃

吉字　〃

日下　〃

標石　〃

八の津差樋

〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1

ガラス使用

卿悉水美樋　　木之子
石之ヶ、　　ヶ三百
已上

一家数弐百六拾之軒
内　百弐拾八軒
　　之軒
　　之軒

農人
大工
木挽

七十五百姓百四拾之軒
内　百三拾三軒
　　三軒
已上

一口数千六拾弐人
内　男五百三拾五人

農人
木挽

畔阪三人
女五百弐拾七人
僧五人
盲僧壱人
已上

一住宅之市諸士壱軒
櫻井弥右衛門

一牛馬百拾壱疋
馬八疋
牛百三疋

一風俗之事
年始之儀ハ古来ゟ之音例を以家毎内外
之餝お調三ヶ日之間氏神社
旦那寺江参詣地下役笠紅合其外因家之
者江年始之壽を述往来仕候尤礼詞取壱
當時之御座候
正月七日初節句ニ限り其片鄙之壱ツ

勤令和仕ル尤家ニ寄七草粥ヲ禁神前ニ
備ヲ着ル御座ル
二月朔日並ニ朔日ト号ヒ先年ノ地下中
一統遊日社参地下役坐勤ル因家ニ往来
仕ル
三月三日桃ノ節句ト号ヒ草餅ヲ搗若雛飾ル仕ル者
少ク尤ニ立ル者草餅ヲ搗ヲ宛搗ル者モ有
之ル苦誠ニ家内限リニ祝ヒ而已ニテ
他家ヲ配當ル不仕ル當日ニ候ハ地下人
別遊日役坐組合因家ニハ勤ル仕ル

端午ノ節麦苅上田方植付時節彼是農業
繁雑ニ家ニ年勤ル不仕ル
五月田方植付ル漸泥落ヒト号人別遊日
小麦或ハ黍團子搗ヘ神前ヘ備ヲ行形ニ
御座ル
七夕ニ義ハ先年ヨリ行形ヲ以寺社参
詣於地下役坐組合親類ヲ外勤合仕ル者
モ有之ル苦地下中一統ニハ御座ル
事
七月十五日中元ニ祝ヒ人別遊日魂祭リ

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1
ガラス使用

墓参を終り香花水を手向燈籠を灯し佛参
尚地下役生親類因家へハ勤合仕た尤佛
前ハ備を迎ハ立た者ハ餅抔へ霊前へ
備へた者も御座ふ
八朔と唱ハ先年ハ旧例を以人別遊日尚
役生其外勤お仕ふ
八月十八日村中惣鎮守八幡宮祭日と唱
人別休日社参尤八幡宮と唱ハ宿井村鎮
坐有之當村ハ凡拾七八丁位も道法お
陽ふ若参詣と工夫人神幸と供仕ふ
祝ハ御座た旦那の客と唱ハ遠方親類因
家と者年中ニ音解壽来た者も有之た
得共前条と通社参と者多く各別馳走ハ
ふ仕ふ
重陽と唱ハ先年ハ休日ふ仕り祝御座た
ふ
婚礼と唱ハ媒仕をにて日柄お撰い入
家お定媒人と者連来盃お添を尚親類
因家近も盃お仕た右祝言として参りた
面へお應へ物品ハ取替仕ふ

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1
ガラス使用

元服之義ハ忰ニ家ヲ譲ル等ノ先年以来祝
ニ合セ候義一向ニ家ニ依テ神酒ヲ備テ
ヲモ申座候
葬式之儀ハ本人勿論大人死去之節ハ諸
中絶合打寄遠近親類ニ知ラセ但那寺
ヨリ案内彼是人手配仕諸中絶合近
隣より香花ヲ弁菅ヲ野辺送りお済
其後仕揚法事ト号シ一豆腐黒布ヲ百ニ
テ一汁一菜ニ賄方仕遠方親類縁者ニ
者追テ疎遠ニ越候ハ香花白米或ハ菓子料
ホ打参ル者ニモ香花ヲ不ニテ賄仕出
仕ル都テ御手ヲ煩ハス亦酒ニ候村中一統
中合ヲモ
霊月廿八日真宗一統祖師命日トシテ遊日
御参仕ル者有之ニテ賄仕出
テ一様ニ振ルマヒ是ホ帰依ル者
念仏海観音海ホ一向ニ御座ヲモ
已上

一物産之事

米九百七拾壱石四斗位
麦九拾百弐拾六石六斗位
大豆九石六斗五升四合位
蕎麦九百六石位
小麦ちゝ三拾三石位
小麦九三石位
大根六千五百六拾貫目位
糠九拾弐石六斗位
大角豆拾壱石九斗位
豌豆七石六斗位
琉球芋四千六百八拾貫目位
小芋九三千三拾七貫目位
煙草九弐百七拾弐位
粢三拾石五斗四升位
右何も豊凶見拵之年分
已上

一産業之事
木綿九七百拾七反位
代銀八貫六百四匁位

羊紙弐拾三九位
代〃百六拾文位
菅笠三万枚位
代〃四百五拾文位
白緒三万位
代〃四百五拾目位
櫨実弐千貫目位
代〃四貫四百目位
縞木綿五百反位
代〃五貫目位

右何れも豊山見拵にて壱ヶ年分

已上

一社祠
妙見社
但神殿桁壱間梁九尺
拝殿桁弐百梁九尺
葺萱を以
当社之後ハ西小山村之内に鎮座有て旭ノ峯と云麓にて四町半余登り祭社國常立尊にて大内改弘卿之時氷上山より勧

請と言伝へ後土御門院帝大内左京大夫
改弘卿と時の應元壬子十月初酉日始て
築りたるより社傳記に見へたり

妙見社

但神殿桁弐百梁三尺
拝殿桁弐百梁九尺葺萱
築神國常立尊
右前におゐて旭の峯妙見の夢中の告
により宝暦八年戊寅九月建立お成た
る

一寺院之事

禅宗蓮生寺
本尊釋迦牟尼如来
堂桁弐百梁五百
享保年中宿井村より当地を移して宝暦九
之年夏川堰替之節當
二年ゟて蓮生庵と唱へ爰元於弐年當
寺号御免許なり又當時法地とゟり其開
山仙外和尚なり昔此所に名花と蓮有之
依之池寺蓮生寺と名付由申傳へ御座

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1
ガラス使用

本尊阿弥陀如来

堂柱四百梁五百甍高く

當寺本尊八人王六代後一條院万壽

元甲子春安置せり當國を主大内家於て

世周防守弘世公伽藍御建立有て後應

安永和之比當國を於て

亂と大内家より定めらふ夫より星霜

を経て當寺及破壊によつて美和を領主

井原左近將監掌信一ねん慶安三年三月

再興一ねふ開基石城山北石坊法印祐軒

阿闍梨と言伝ふ又寺中に蓮の名花あり

其故をいて蓮地寺と号(なづく)る當寺外左之方

格井と云右之方石なり是を蓮町と云此

邊に蓮池なり北之方井上といふ又後ろ

に蒲川有これを宮川と名付りと云く

日寺境内

観音堂

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1

ガラス使用

本尊聖観音丈三尺許立像之
脇立日天春日両神　法橋宣朝作則光孝帝
五世之孫京都清水寺ニ別當ナリ
荒沢社
昔ハ山内の鎮守なりしにや地下垂積
今ハ下府の
已上

一塩濱
一市茶屋市本陣

一御代官市御書
一御高札場
一御船倉
一宇屋
一三里塚
一本往還
一驛市中
一温泉
一狼烟場
一牧池沼

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1
ガラス使用

一海鳥湊
一岬迫門瀬ヘ
一職人札高人札馬飼札
一度牒生津手形
一雑戸
一古城跡
一古戦場
一名所旧跡
一陵古墓
右當村ニ於御座候

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1
ガラス使用

829
86
1

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『周防国風土記 273巻』 請求記号 829-1

ガラス使用